

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教職員は「教学相長」の創立時精神を踏まえ、「チーム布施高」として、その資質・能力の向上を図り、教育内容の充実と環境整備につとめ、

1. 基礎学力・語学力を確実に身につけ、思考力・判断力・表現力・行動力を備えた生徒の育成に努める。
2. 自他を認め、まごころと思いやりを持つ心身ともに健全で規律ある生徒の育成に努める。
3. グローバル社会を生き抜くため、個を磨き、自己成長を習慣化できる人間の育成をめざす。

2 中期的目標

1、確かな学力の育成

(1) 授業力向上

ア プロセスアプローチの導入。各学年の教科毎に Input と Output を定義し、投入する資源、陣容、運用方法（手順・技法）、評価指標（監視測定項目と目標値）を明確にする。各年度毎にプロセススタート図の作成と Web 公開

イ アンケートの活用や公開授業・研究授業の推進。学校教育自己診断における「学力のつく授業が多い」の項目で、肯定的回答 20%増 (H24 年度は 50%) を達成する。

ウ ICT を授業に積極活用することで、わかる授業、興味を引く授業を展開する。

(2) 進路保障

エ 普通科専門コースを導入し、将来生徒たちがなりたい自分を実現する選択の幅を広げる。

オ H28 年度国公立合格者、関関同立合格者を平成 25 年度比倍増する。(H25 年 現役：国公立 7 名、関関同立 25 名)

(3) 自学自習への仕掛け

カ 家庭学習課題の充実、新入生対象学習合宿の実施、補習・講習の充実

キ 校内自習環境の整備推進

ク PTA 活動での保護者への働きかけ

2、健全な心身の育成

(1) 自己を厳しく律する力と自尊心の育成

ア 挨拶指導・遅刻指導の充実により、H27 年間総遅刻数 H24 年度年度（総遅刻数 5346）比 30%減の実現

イ 充実した自治会行事の継続、部活動の加入率 80%以上の実現（H25 年 5 月時点 66%）

ウ 教育相談委員会の活性化、個別生徒支援の充実を図り、学校教育自己診断における「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定的回答 70%以上を達成する。(H24 年生徒 52%、保護者 65%)

3、夢・志のはぐくみ

(1) 系統的なキャリア教育による志や目的意識の醸成

ア FROM NOW（総合的な学習の時間）や LHR・学校行事の見直しと充実。

イ 国際理解教育の推進

(2) 地域連携強化による地域に大切にされる学校づくり

ウ PTA 活動の充実を図り、保護者授業参観参加者の倍増を実現するとともに、新たに導入したワークショップ形式の保護者と教職員の意見交換会の継続・充実に努める。

エ 近畿大学をはじめ他大学との連携による出前講義・体験講義の充実を図る。また、司馬遼太郎記念館との連携の充実を図り、志学に位置付けた「司馬遼太郎学習プログラム」「菜の花忌運動」を展開する。

4. 機能的な組織運営

(1) 情報化の推進と業務効率 Up

(2) 運営委員等のミドルリーダーの育成

(3) 若手教員の育成

(4) 防災教育・訓練の充実

(5) 広報活動の充実

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>・「学力のつく授業が多い」と「教え方を工夫している先生が多い」の生徒の肯定的回答（平均値）が 56%と昨年と変わっていない。教職員側の肯定的回答（平均値）は 84%と高く、生徒との認識に大きなずれがある。生徒の授業アンケートも参考にしながら、各教員の授業力向上への仕掛けが必要</p> <p>・「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の生徒の肯定的回答が 51%にたいして、教員側のそれは 87%と大きなずれがある。教育相談係を設置して生徒の相談に対応しているが、質問の仕方も含め関係部署で論議が必要</p> <p>・「ICT 機器が各教科で活用されている」の生徒の肯定的回答が 40%に対し、教員側の肯定的回答も 42%と同レベルであり、一層の活用が課題である。ICT 機器を使った授業見学や研修等を推進していく必要がある。</p> <p>・「国際理解教育に力を入れている」の生徒肯定的回答は 42%と昨年の 28%よりは改善した。これは本年から取り組んだ短期海外語学研修や短期留学生の受け入れ等が影響したと考えられる。一方、国際理解教育とは単に異文化に直接ふれることだけではないということも踏まえて今後の推進を図っていく必要がある。</p>	<p>第一回協議（学校改善に向けて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学力は生徒を引き付ける授業力や教員間の切磋琢磨で必ずあげることが可能である。時代が変わっているので教え方も変えないといけない。 ・自律心が大事、学習へのモチベーションを高める工夫を考えるべき。 ・読書は大事。司馬遼太郎記念館もそのきっかけづくりにどしどし利用してほしい。 <p>第二回協議（学校改善に向けて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅刻と成績の相関をデータ化できれば課題の可視化が可能。生活態度を変えないとせっかくのポテンシャルが生かされない。 ・遅刻は親に返すべきである。挨拶や遅刻については保護者や地域の力をかりるべき。 ・緊張感を植え付けるという意味で標準服を着させるという意義はある。 ・親の教育力が重要。変わってくれる親を増やすことで全体に変化が起こる。 ・「生徒を預かったレベルを維持して次のステージへ」は大事なコンセプト。 <p>第三回協議（学校改善に向けて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断や授業アンケートは、教員が自分で目標を立て、自らがそれを評価し、次の改善につながるというサイクルを回す必要がある。たとえば、Reflection Sheet を用意し、何をがんばったか、どんな効果させたか、今後の課題はなにかといった内容を生徒に返すことが大切。教員自身の自己点検・自己評価のツールとして使うことで、自分の授業力を上げることにつながる。それがチーム（教科内）で共有されれば、教員間のばらつきもなくなる。 ・生活習慣として、当たり前のこと（たとえば挨拶・遅刻等）ができるようになれば学力も向上する。 ・教職員は積極的に自らを高める外部の活動に、自分で参加していくべき。忙しいはだれも同じである。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
確かな学力の育成	<p>(1) 授業力向上 ア プロセスアプローチ イ 授業アンケートの活用や公開授業、研究授業の推進 ウ ICT活用授業</p> <p>(2) 進路保障 エ、オ 専門コース設置</p> <p>(3) 自学自習 カ、キ、ク 授業以外の学習時間確保</p>	<p>ア 各学年教科毎にプロセスのタートル図作成とWeb公開</p> <p>イ 教員相互の授業見学（少なくとも教科内授業）とReview会の実施</p> <p>ウ プロジェクター、iPadを活用した授業の実施で、生徒の興味や関心を引くとともに考える時間を創造する。</p> <p>エ、オ 2年生に3学級アドバンスコースを導入し、国公立、難関私学に対応する授業実施</p> <p>カ、キ、ク 家庭学習課題の充実。学習合宿実施。年間補講、講習計画と実践。サテラインゼミの実施。質問コーナー整備。</p>	<p>ア 授業アンケートで「学力の付く授業が多い」「教え方を工夫している先生が多い」の生徒肯定的回答の10%増（H25年55%）</p> <p>イ 教員による授業見学全員参加。</p> <p>ウ ICTを活用した教員30名以上、授業アンケートで「ICT機器が各教科で活用されている」肯定的回答50%以上（H25年度36%）</p> <p>エ、オ アドバンスコース新2年生が3年生春学力生活実態調査で2年生春レベルを維持</p> <p>カ、キ、ク 4月と11月に授業以外の学習時間を調査。1、2年生は平日60分以上、3年生は平日120分以上。 学習合宿後のアンケートで学習意欲高まったの肯定回答80%以上</p>	<p>ア 学校教育自己診断で「学力の付く授業が多い」「教え方を工夫している先生が多い」の生徒肯定的回答55%で変わらず。（△） （H26年55%） ・引き続き次年度以降も取り組む課題</p> <p>イ 全教員（61名）が最低一回授業見学（◎）</p> <p>ウ ICTを活用した教員38名（○） ・学校教育自己診断で「ICT機器が各教科で活用されている」肯定的回答（H26年40%） ・引き続き次年度以降も取り組む課題</p> <p>エ、オ H27年度4月の結果を持って判断 H26年度7月の模試で2年生上位者人数は1年生1月時から増加に転じる。</p> <p>カ、キ、ク 11月に自宅学習時間が1、2年生とも50分を超えるまでになってきた。（○） 1年生4月：52分 11月：55分 2年生4月：29分 11月：58分 3年生4月：42分 11月：3時間 さらに自宅学習時間確保に向けた取組みを続ける 学習合宿後のアンケートで学習意欲高まったの肯定的回答83%（◎）</p>
健全な心身の育成	<p>(1) 自律と自尊心育成 ア 挨拶指導、遅刻指導 イ 充実した自治会活動、クラブ活動 ウ 教育相談の充実</p>	<p>ア 朝の立ち番、登校指導週間の実施</p> <p>イ 体育祭、文化祭の充実。新入生への部活動入部促進。アルバイト原則禁止の徹底</p> <p>ウ ・教育相談委員会の定例化と充実 ・支援教育コーディネータ中心に支援委員会を充実</p>	<p>ア 年間総遅刻件数4000以下（H25：5048）</p> <p>イ 部活動入部率80%以上（H25年3月時点：76%）</p> <p>ウ 学校教育自己診断「親身になって相談に応じてくれる先生多い」肯定回答70%以上（H25年60%）</p>	<p>ア 年間総遅刻件数H26年度4473（△） ただし、1・2年生は前年同期から減少、引き続き次年度以降取組みを続ける。</p> <p>イ 部活動入部率H26年5月時点1・2年生平均80% 1年生：84% 2年生：76% 3年生：70%（○）</p> <p>ウ 学校教育自己診断「親身になって相談におおじてくれる先生が多い」 生徒肯定的回答H26年51%（△） 質問の仕方も含め関係部署で協議必要</p>
夢・志のはぐくみ	<p>夢・志のはぐくみ</p>	<p>ア From Now（総合的な学習）・LHRの見直し</p> <p>イ 国際交流の推進と国際理解教育の推進 オーストラリア短期語学研修実施</p> <p>ウ 体験講義・出前講義等の実施と充実。 司馬遼太郎学習プログラム、菜の花忌運動の展開</p> <p>エ PTA活動と連動させた、年二回の授業見学週間の実施</p>	<p>ア、イ From Nowの見直しで、自己の確立とコミュニケーション能力、さらには異文化と共生できる資質や能力を育成する。 「国際理解教育に力を入れている」肯定的回答50%以上</p> <p>ウ 司馬遼太郎学習プログラム1年生全員。 菜の花の忌運動1、2年生参加10%Up 1、2年生全員がオープンキャンパス訪問</p> <p>エ 授業見学参加者50人以上</p>	<p>ア、イ 「国際理解教育に力を入れている」生徒の肯定的回答H26年42%（○）（H25年28%） H26年度は国際理解教育元年として取り組んだ。次年度以降さらに強化予定 ・オーストラリア短期語学研修 ・マレーシア高校生1名一月受け入れ ・台湾高級中学交流</p> <p>ウ 司馬遼太郎館や近隣大学と積極交流（◎） 1年生全員 司馬遼太郎学習プログラム実施 同志社大学見学 2年生全員 近大体験 オープンキャンパス2校見学 2年生希望者 関学見学 2年生美術 近大文芸学部生出前授業 菜の花忌運動参加者15%Up</p> <p>エ PTA総会や実行委員化等で約50名強の授業参観実現（○）</p>

府立布施高等学校

機能的な組織運営	<p>(1) 情報化の推進と業務効率Up</p> <p>(2) 運営委員会ミドル Leader 育成</p> <p>(3) 若手教員の育成</p> <p>(4) 防災教育・訓練の充実</p> <p>(5) 広報活動の充実</p>	<p>(1) ア 内部データの電子化、情報共有化。Mail の活用、職員会議のペーパーレス化。</p> <p>(2) イ ミドル層に経営参画を意識させ、積極的提言を求めていく。</p> <p>(3) ウ 同年代の他校教員、他業種との交流の場を設ける。新任教員への校内研修実践</p> <p>(4) エ 防災訓練の実施</p> <p>(5) オ 学校説明会充実、中学・塾のへの訪問リーフレット作成</p>	<p>ア 職員会議のペーパーレス化</p> <p>イ 課題テーマごとにPTを組織し、企画会議、運営会議に提言してもらう</p> <p>ウ 他校との交流、他業種との交流（各1回/年）、研修実践</p> <p>エ 警察、消防との総合訓練実施</p> <p>オ 志願者倍率の維持（前期 4.81 後期 1.26）</p>	<p>ア H26 年下期以降、職員会議は原則ペーパーレス実現（◎）</p> <p>イ 下記のPTを立ち上げ成果につなげた（◎）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会立ち上げ 朝の小テスト導入（H26年6月以降） クラブ活動後の補習開始（H27年1月以降） ・標準服導入委員会立ち上げ H27年入学生より全員購入、公式行事着用 ・国際交流委員会立ち上げ H27年オーストラリア短期語学研修 マレーシア留学生一か月受け入れ 台北市立江華高級中学（36名）来校 <p>ウ 若手教員の他校交流は個別にはあるものの、組織としては実現せず。また、他業種交流は実現せず（△）</p> <p>エ 総合避難訓練実施するものは雨天と先方の緊急出動で警察・消防は参加できず。（○）</p> <p>オ 志願者倍率 前期 4.75 後期 1.26（○）</p>
----------	--	---	---	---